

2025（令和7）年度

目白大学短期大学部外部評価委員会 報告書

2025年11月8日

目白大学短期大学部

## プログラム

1. 開会
2. 学長挨拶
3. 出席者自己紹介
4. 議事進行
5. 閉会

## 外部評価委員会委員

敬称略、2025年11月8日現在

氏名	所属・肩書	*1
吉田 直子	学校法人目白学園 目白研心中学校・高等学校 校長	1号
峰尾 隼人	株式会社 Criacao (クリアン) クラブ事業部 競技企画・運営室 室長	3号
石塚 美喜男	西落合旭通り商店会 会長 (株式会社伊勢光 代表取締役社長)	3号
矢口 雅子	目白大学短期大学部校友会 会長	4号
岩倉 正枝	株式会社クレセントアイズ 代表取締役会長	4号
入江 祐介	社会福祉法人パール 常務理事 特別養護老人ホーム パール代官山 施設長	5号

\*1 目白大学短期大学部外部評価委員会規程第3条の号に合致した者

※第2号委員1名については、委員会開催前にやむを得ない事情により欠員となったため、本委員会は欠員の状態で開催した。

## 2025 年度 目白大学短期大学部外部評価委員会 議事概要

### 【開催概要】

開催日	2025（令和7）年11月8日（土）	
時間	13：00～14：10	
形式	Zoom ミーティングによる遠隔会議	
外部評価委員 出席者	吉田 直子	大学・高等学校等の教育機関の教職員
	峰尾 隼人	地域の関係者・本学参画の地域活動の関係者
	矢口 雅子	本学卒業生
目白大学短期大学部 出席者	山田 隆文	学長
	小松 由美	副学長（司会進行）
	伊藤 浩正	製菓学科長
	上岡 史郎	ビジネス社会学科長
	佐藤 昌史	歯科衛生学科長
	中野 恵美子	学務副部長（教務担当）
	常松 玲子	学務副部長（進路担当）
	小島 洋介	大学企画室 課長代理
	本橋 麻美	大学企画室（事務局担当）
高山 桃花	大学企画室（事務局担当）	

なお、当日欠席した委員3名のうち、2名からは事前に送付した質問票への回答を提出いただいた。

### 【議 題】

#### 1. 開会

山田学長より、本学の状況について説明があり、忌憚のない意見をいただきたいとの説明があった。続いて、外部評価委員の皆様より、名簿順に自己紹介をいただき、次に、大学側出席者の自己紹介を行った。

目白大学短期大学部外部評価委員会規程第五条に則り、小松副学長より吉田委員が委員長に指名されたことの紹介があり、以下議事進行は委員長が行なうこととした。

#### 2. 目白大学短期大学部における活動について（報告）

（1）文部科学省の令和6年度私立大学等経常費補助金に係る「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」について

山田学長から「少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援」対象校として選定されたことについて資料に基づき説明の後、外部評価委員に対して意見を求めた。

～委員からの評価・意見～

- ・ 素敵な取り組みだと思う。留学生や社会人の受入れについて、社会的なニーズもあり、現状のインターンシップ以外にも多方面で連携できればと思う。
- ・ 製菓学科の留学生受入れについて、海外では日本のスイーツの評価が高く日本で学びたい外国人が多いため、良い取り組みだと思う。ビジネス社会学科と歯科衛生学科の地域連携特待生と社会人の受入れについても、地域に根強い密着型の短大が一番良いと思う。

## (2) 「2024年度(令和6年度)全国学生調査」の結果について

ポジティブリストに短期大学部の製菓学科が掲載されたことについて、山田学長と伊藤学科長より報告後、外部評価委員に対して意見を求めた。伊藤学科長からは、何か特別な取り組みをしているわけではなく、日々の学生指導や教育活動が評価されている結果であるという点が補足された。

～委員からの評価・意見～

- ・ とても喜ばしく思っている。実際にメールや学園祭等で卒業生から、社会に出て先生方の日頃の細かな指導や心遣いのありがたみを身に染みて感じたとの声を聴いたため、アンケート回答率の高さを含めて、結果として表れたことはうれしく思う。
- ・ 先生方の日頃の努力の賜物だと思った。また、どんな工夫をしてこういった結果に結びついているのかについて、お聞きしたいと思った。

## 3. 外部評価委員との意見交換

山田学長より2025年度事業計画書の短期大学部関連部分の説明がなされ、吉田委員長より事前に書面回答のあった委員の意見が読み上げられた後、「教育」「研究」「学生指導」「社会貢献」の分野それぞれについて、学科長と学務副部長へ意見を求めた。

・ 伊藤製菓学科長：

社会に出るとお客様と接する機会が多くなるが、10年近く学生を見てみると、アルバイト先での学びが実習にも生きているのではと感じる。地域関連では、商店会に行く機会を増やすという点で、学生たちが町巡りや散策をしていけば賑やかにな

るのではないかと感じる。学生ができることは沢山あるので、学科として応援したいと思う。

・佐藤歯科衛生学科長：

教養も含めてカリキュラム設定されているが、専門的な知識に意識がいつてしまう学生が多い。キャリアデザインの授業や歯科医療の現場に行き、仕事をされている方々の生の声を聞くことによって医療人として目指すところを育てている。国家試験があるため、最後はどうしても知識を詰め込む形になってしまうという現実があり、理想とのギャップで教員も悩んでいる。

・上岡ビジネス社会学科長：

入学時に目標がはっきりと定まっている学生は少なく、入学後に将来を考えていく学生が非常に多い。ベーシックセミナーやキャリアデザインという授業の中で、将来について自ら考え選び取る力を育てていきたい。社会人としてのマナー教育には力を入れており、学生も自信をもって卒業できていると感じる。サービス待遇検定や秘書検定の資格はほぼ全員が取得しており、就職に関しては内定率 100%ということからも、学生のモチベーションが高いことがわかる。授業では商店会に行き、リサーチやインタビューをした内容をホームページやポスターとして作成する活動をしたり、落合南長崎駅にポスターを張り出して商店会があることを知ってもらったりするなど、学生のアイデアが実現している段階になっている。地域連携活動やインターンシップ等で社会人と接して気づきが出てくるため、今後もお世話になりながら頑張っていきたい。教員の研究については、論文を出し、研究を進められる体制を作っていきたい。

・中野学務副部長（教務担当）：

プレゼンテーション能力について、パワーポイントなどでの資料作成能力は良いと感じているが、それをどう活用し伝えていくかという部分に個人差がある。歯科衛生学科については、人と接する仕事という上で大事な部分が卒業時にすべて整えられているわけではないため、今後の課題である。挨拶や、マナーの部分に関して指摘を受けることがかなりあるため、卒業時に当初の目標を全員が達成できるようサポートしていきたい。

・常松学務副部長（進路担当）：

就職について、製菓学科とビジネス社会学科は、100%内定をいただいている。今年度は初期の目標を達成できるのではないかと考えている。高い内定率の要因は、キャリアセンターと教員、保護者がしっかりとタッグを組んで学生支援にあたっていることだと思う。AI 面接など新しい手法も主流になる中、学生が対人コミュニケーションに苦手意識を持っていることが問題として指摘されているため、上手

くコミュニケーションをとれるようになる教育に取り組み、就職支援につなげていきたいと考えている。

上記意見に続いて、吉田委員長より外部評価委員に対し、分野それぞれについて意見を求めた。

- ・学生の質が変わったことによる指導の大変さを実感している。しかし、学生が成長した姿を拝見すると、先生方の日頃の努力は決して無駄ではないと思う。外部の方から学生に対するお誉めの言葉をいただくことがあり、先生方のご苦勞と教育の賜物だと思うので、これからも頑張ってください。
- ・学生とこの3、4年間一緒に活動していて、積み上がっているものがあると感じている。短期間での課外活動や地域連携が増えるにつれ、苦勞することもあるのではないと思うが、地域連携を継続したい気持ちは同じなので、定期的に顔を合わせながら地域を盛り上げていく活動を一緒に出来たらと思っている。

続けて吉田委員長より、所感として以下の発言があった。

- ・全国的に短期大学の学生募集が厳しいという社会情勢だが、先生方の親身なご指導、教育姿勢がポジティブリストのランクインにもつながっていると思う。短大の存在意義が注目される時代がまた来ると思うので、先生方には頑張ってくださいと思う。また、短大の学生と中高の生徒と一緒に地域での企画イベントを盛り上げることができれば、高大連携にもなるのではないと思う。

山田学長より以下3点の説明があった。

- ①数年前から入学式後に保護者懇談会を行い、保護者と密に連携をとり、保護者を巻き込んで学生指導を行っている。出席が足りない場合は保護者にすぐ連絡がいく方法をとっていたり、早期退学を防ぐため三者面談を行っていたりする。そうした部分で教員の負担はかなり増えているため、働き方改革にならないのではと懸念している。
- ②製菓学科とビジネス社会学科については内定が早く出るが、歯科衛生学科については就職の方針が異なるため、卒業直前に就職先が決まるということもある。ただ、かなり良いところに就職しているため、きちんと育てた成果が出ているのではないと思う。AI面接、コンピテンシー面接等のWeb面接が始まっているため、そうした準備もしていく必要があると考えている。

- ③コミュニケーション能力について、ケア・コミュニケーション検定などの検定を取得させる授業を取り入れることも今後考えていきたいと思っている。

### 3. 閉会

山田学長より、外部評価委員の皆様へ感謝を伝え、閉会した。

以 上